

説教余滴 2020年2月2日《ホロコースト》

1月末、第二次世界大戦時、ナチ・ドイツによって作られた強制収容所が解放された75周年を記念する式典が開催され、ニュースとして流されました。強制労働から絶滅へと標榜するものは変化しました。しかし、ユダヤ人を劣等民族として絶滅することを目指していたことに変わりはありません。劣等民族が、世界を動かし支配することができるのでしょうか。論理矛盾です。ヒトラーは、日本人を含む黄色人種も劣等民族としています。それなのに、独・伊・日の三国同盟を締結します。賢明な日本の政治家、軍人は、いったい何を考えていたのでしょうか。

「ホロコースト」は、ギリシャ語にその語源を持ち、「全焼の（焼き尽くす）いけにえ」を意味していました。旧約聖書創世記8：20、詩編51：19などに出てきます。時代と共に、大規模な破壊、殺人をあらわすことばとして用いられました。第2次世界大戦後、ナチス・ドイツによるユダヤ人や他民族への破壊、大量殺人を意味することばとして用いられ、今日では、主にユダヤ人（600万人）への大量虐殺を表現することばとなっています。

犠牲となった人々、その家族、友人がたは、なぜこんなことが起きたのか、と問うことでしょうか。すべての人が、このことの意味を、犠牲となった命の意味を考えざるを得ません。そうした思索と祈りから「ホロコースト」が用いられたのではないのでしょうか。全焼のいけにえには、清く傷のない家畜が用いられ、ささげた人の罪を担います。悲しいことですが、犠牲となった人々の命は、全世界の罪の赦しを求めています。

人々を差別したり、虐殺したりする事件が、今も世界中で起きています。ホロコーストの中を生き延びた人々が減っている今、この悲劇が二度と起きないように、その歴史を学ぶことは、とても大切なことです。